

第6学年 国語科 「目指せ！ プロフェッショナル」(全8時間)  
「プロフェッショナルたち」(東京書籍 6年)

指導のねらい

- ・複数の文章を読み比べ、自分の考えを広げ深める力を付ける
- ・「将来の夢や生き方について、自分の考えを発表」することで付けたい力  
(1)複数の文章の、「共通点」と「相違点」、文章が複数あることの「効果」を読み取る力  
(2)自分の「知識」「経験」「夢」を関連付けて、自分の考えを深める力  
(3)お互いの生き方を自分と比べながら交流し合うことで、自分の考えを広げ深める力

単元の実際

「プロフェッショナルたち」を読み、自分の夢や生き方を発表し合う

第1次 単元のゴールの見通しを持つ。

① 「プロフェッショナル」とは何か考える。

- ◇単元のゴールを確認し見通しをもち、自分の生き方について考える。  
・教師が作成したモデル文を提示し、学習の見通しを持たせ、自分の生き方を考える出発点とさせる。

第2次 「プロフェッショナルたち」を読み、3人の仕事ぶりや思い、考え方や自分の経験を用いて、自分からのメッセージを考える。

② 3人の共通点を考える。

- ◇なぜ3人の事例が選ばれたのか考え、3人の生き方について共通点を読み取る。  
・3人の事例を読み、表にまとめさせる。表からプロフェッショナルらしさを考え、3人の生き方の共通点をまとめさせる。

③ 3人の相違点を考える。

- ◇3人の生き方の「共通点」から整理して「相違点」を読み取る。  
・表を活用し、3人の共通点と相違点を読み取らせる。

④ 共感する生き方を探る。

- ◇3人と自分との「共通点」や「相違点」を考え、共感する生き方を探る。  
・3人の生き方と自分の経験や考えとの共通点や相違点を見つけさせ、自分の考えをまとめさせる。

2ページ参照

⑤⑥ 自分のメッセージを書く。

- ◇3人の仕事ぶりから自分に活かせることを見つけ、自分がどんなプロフェッショナルになりたいかを書く。  
・これまで教材文で読み取ったことと、並行読書で考えたことを活用して、自分のメッセージを書かせる。

第3次 書いたメッセージをクラスで交流する。

⑦ メッセージをクラスで交流する。

- ◇メッセージを交流し、メモして感想を伝え合う。  
・学習に沿って書いたものを発表し合い、生き方についての幅を広げることができるよう自分のメッセージと比べながら交流させる。

⑧ 学習を振り返る。

- ◇交流を振り返りながら、書き足したり書き直したりして、自分の考えを深め広げる。  
・交流を活かして、自分の考えをさらに深めさせる。

◇ 主体的・対話的で深い学びの過程を実現する工夫

④ 共感する生き方を探る。

授業の実際

☆前時の振り返りをする。

◇共通点、相違点について確認する。

- ・表を振り返りながら確認させる。



二人の共通点や相違点をまとめた表

◇3人のプロフェッショナルたちの共通点と相違点の表を活用して、自分と比較する。

- ・自分の経験や夢、読書等から得た知識を3人と比較させ、自分の努力していること、努力したいこと、経験と似ていること、考えと似ていること、違うこと、夢につながることを付箋（色分け）にメモさせる。
- ・3人のプロフェッショナルたちの共通点や相違点の表に比較した付箋を貼らせる。  
※3人のプロフェッショナルたちから1人（複数）選ばせ、自分の努力していることと比べさせる。



付箋にメモする場面

◇書いた付箋をペアで確認し合う。

- ・条件に合った付箋になっているのか確認し合う。



付箋を確認し合う場面

☆課題をつかむ。

自分が共感できる「生き方」を考えよう。

- ・単元のゴールと本時のつながりを確認させる。

◇表と付箋を見ながら共感するプロフェッショナル（たち）を選ぶ。

- ・比較してメモした付箋と表を活用し、さらに自分が共感できるプロフェッショナルを選ばせる。

◇自分が共感できるプロフェッショナルを選び、なぜその人を選んだのか理由を書く。

- ・共感するプロフェッショナル（たち）を1人～複数人選び、「自分と似ているから選んだ」、「違うから選んだ」、「だから～したい」、「～を目指したい」等、選んだ理由を書かせる。
- ・書けない児童には机間指導しながら、表や教室に掲示してあるモデル文を参考にするように助言する。



机間指導、個の学びを把握

◇書いた文章をペアで発表し合う。

- ・選んだ人物の理由を自分と比べながらペアで聞き合うようにさせる。
- ・机間指導しながら、書き方が参考になる児童を選び、全体に発表させる。



モデル文に振り返り、単元のあてを確認

☆振り返りをする。

◇発表を聞き合い、学習をまとめる。

- ・今日学習して学んだことを書かせ、次時の学習につながっていくことを知らせる。



互いの文章の相互評価



振り返りで学びの確認

☆授業の流れ ◇児童の学習活動 ・教師の働きかけ